

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 多様な学びの連続性がとても重要であることが深く理解できました。同時に連続性の難しさも現実問題として多くあると感じました。現在は学びの場が変わってしまうと支援が途切れてしまうことが多いと感じています。子どもはもちろん、保護者のストレスも多いと思いますので、少しでも切れ目なく支援していくことができるように話し合い・理解し合える関係づくりを大切にしていきたいです。インクルーシブ教育については、これからも深い学びにしていきたいです。
- ◆ 発達障害は周りからなかなか理解されず、本人はもちろん、保護者も様々なストレスを抱えていることを理解しました。今まで、発達障害をもっている子どもに対して、偏った見方をしていたと反省させられました。その子ができること、目指していることを自分たちで試行錯誤しながら、その子に合った道を広げていきたいと思います。そして、保護者との信頼関係の大切さを改めて確認することができました。
- ◆ 個別の特別支援計画を立てる時、子どもを中心に考え、関係機関との連携が大切であることを学びました。子ども本人や保護者が学校や学童などの社会の中で安心して過ごせるよう保育園ではどのような子どもであったか、小学校や学童ではどのような子どもであってどのような支援が必要であるか情報交換を行い、共有する中で考え、職場での役割を考えながら勤めていきたいです。
- ◆ 学童生活で診断はないが発達障害の特性が見られる児童もいます。問題行動や否定的に促してしまいがちだが、肯定的な考え方に変換し、できたら褒めるなど少しずつ共に成長できるように接したいと思いました。それぞれの人や学びに合った合理的配慮や家庭・学校とも連携して、良いところを見つけ共に考え育み、少しずつできたり困ることがなくなるようにする必要性を感じました。また、保護者の感情を受け入れ、時間をかけて関わることの大切さを学びました。
- ◆ 障害のある子どもには長期的な支援が必要で有ることが分かりました。そのため、小中高と切れ目のない支援をするために生徒さんの特性を理解し、職員同士で情報共有をすることで寄り添った支援が出来ることが分かりました。また、個別の教育支援計画を作成することの大切さや学校・支援所が保護者と連携することで生徒さんや保護者のストレスを少なくすることが全体への支援になるということを感じました。